










# 誤嚥性肺炎で入院された患者様へ

患者氏名：

経過 日付	入院日		入院2日目～3日目		入院4日目～6日目		入院7日目	退院予定日	外来 受診日	
	/ /		/ ~ /		/ ~ /		/	/	/	
ゴール (到達目標)	①呼吸苦がなく安定している ②食事摂取に関する指示を守ることができる ③治療について理解できる ④日常生活上の注意点が理解できる(転倒転落予防、褥瘡予防)		①呼吸苦がなく安定している ②水分摂取ができる ③転倒・転落がない ④皮膚に持続する発赤が出現しない		①リハビリを開始できる ②誤嚥性肺炎の悪化がない ③食事に関する指示を守ることができる ④転倒・転落がない ⑤皮膚に持続する発赤が出現しない		①呼吸が楽で安定している ②リハビリができています ③栄養補給ができています ④誤嚥性肺炎の悪化がない		①退院に向けて日常生活上の注意点が理解できる ②発熱がない	
治療 処置	抗生剤の点滴を行います  痰を出しやすくするための吸入を、1日4回10分間ずつ行います 必要時、酸素投与をします 口腔内の清潔を保つため、汚染がある場合は歯科受診(別途料金がかかります)を行います 水分や食事が困難な間は点滴で水分と栄養を補給します									
検査	採血とレントゲンの検査をします。 		飲み込みづらさがある時は、鼻からカメラを入れて検査を行うことがあります。 		採血をします		採血をします 			
安静度	病状が安定するまでは室内でお過ごしください		病状が安定していれば制限はありません。(院内フリー)							
食事	飲食は医師の指示に従ってください 飲み込みに問題がある場合は絶飲食です  		飲み込みの評価をしたうえで、どのように栄養摂取していくかを医師と検討していきます		【経口摂取可能】  摂取可能なお食事から開始します 状態によってはゼリーやムース状のお食事のこともあります 飲み込みの状態によって食事内容は変更します		【経管栄養】 お鼻から胃までチューブを入れて栄養剤を注入します 下痢や嘔吐などの症状がなければ少しずつ量を増やしていきます			
	病棟もしくは病室のトイレをご利用ください 呼吸が不安定な時はふらつきやすいため転倒に注意してください 無理をせず看護師を呼んで一緒に歩行を行ってください									
清潔	発熱がなければ入浴できます。入浴できない場合は看護師が体拭きや洗髪のお手伝いをします 口の中を清潔に保つため、自力で歯磨きができない場合は看護師や歯科衛生士が口腔ケアを行います									
リハビリ	運動や飲み込みに関するリハビリを始めます				筋力が低下しないよう、できるだけベッドから起きて過ごしてください					
説明	現在服用しているお薬や、お薬手帳があれば、看護師へ渡してください。 入院日または入院2日目頃に薬剤師が病室へ行き、お薬のことをお伺いいたします。 				退院もしくは転院の方向性を相談させていただきます 自宅退院またはリハビリのための転院を希望されるかなどを医師や看護師、社会福祉士と相談しましょう		退院後の注意すべき点を退院療養計画書にて説明します			
	転倒防止の説明(映像視聴)をします 入院の準備物品においてアメニティセットを申しこむことができます。申し込まれない場合は着替えや必要物品をお持ちください		<b>病状や経過に応じて入院期間が前後することがあります。</b> 今後の入院計画をお伝えし、退院に向けて検討を始めます。		食事が進まない場合、自宅退院の場合は今後の食事内容に関して栄養指導を行います					

退院後の受診日までには異常を感じましたら受診日を持たずに受診してください。

※この表は入院中のプランを一覧にしたものです。  
 ※状況に応じて予定が変更になる場合があります。ご不明な点がございましたらいつでもお尋ねください。